

信州大学博士課程教育リーディングプログラム  
ファイナルネッサンスを先導する  
グローバルリーダーの養成

外 部 評 価 報 告 書  
(平成 30 年/2018 年度)



信州大学博士課程教育リーディングプログラム  
「ファイナルネッサンスを先導するグローバルリーダーの養成」  
平成 30 年/2018 年度外部評価報告書

## 目 次

1. 外部評価実施概要
  - 1.1 外部評価委員会日程およびプログラム
  - 1.2 委員会出席者
  - 1.3 配布資料(一覧)
2. 事業評価シートによる委員の評価
3. 外部評価委員会議事録
4. 外部評価を受けて
5. 外部評価資料
  - 5.1 事業評価シート(個人)
  - 5.2 事業評価シート(総評)

信州大学博士課程教育リーディングプログラム  
「ファイナルネッサンスを先導するグローバルリーダーの養成」  
平成 30 年/2018 年度外部評価報告書

## 1. 外部評価実施概要

### 1.1 外部評価委員会日程およびプログラム

信州大学博士課程教育リーディングプログラム  
「ファイバールネッサンスを先導するグローバルリーダーの養成」  
**平成 30 年度外部評価委員会 プログラム**

日時：平成 31 年 1 月 10 日（木）午前 9 時から

場所：ザ・グラウンドティアラ上田（高砂殿）（長野県上田市天神 2-2-2）  
3 階 アマンダ

9：00	プログラム責任者挨拶（繊維学部長：下坂教授）
9：05～	外部評価委員会について説明（メンター教員：三浦特任教授）
9：10～	プログラムの実施状況の説明 （プログラムコーディネーター：高寺教授） ・プログラム実施状況 ・教育内容および方法 ・教育の質保証
9：30～	質疑応答
10：00～	外部評価委員と学生との意見交換
10：50～	評価まとめ
11：40～	講評
講評終了後	プログラムコーディネーター謝辞（高寺教授）

外部評価の内容：

- ① プログラム実施体制
- ② 学生の受け入れ状況
- ③ 教育内容および方法
- ④ 教育の質保証

## 1.2 委員会出席者

### 【外部評価委員】

#### 出席

堤 理 (炭素繊維協会 技術委員)  
高木 泰治 (一般社団法人日本染色協会)  
土谷 英夫 (日本不織布協会 顧問)  
松原 富夫 (一般社団法人日本繊維技術士センター 理事・教育活動委員長)  
村瀬 浩貴 (一般社団法人繊維学会 副会長)

#### 欠席

杉浦 宏美 (経済産業省製造産業局生活製品課長)  
上田 英志 (日本化学繊維協会 副会長・理事長)

### 【信州大学】

下坂 誠 (プログラム責任者・繊維学部長)  
高寺 政行 (プログラムコーディネーター・教授)  
石澤 広明 (運営委員長・教授)  
乾 滋 (教育戦略委員長・教授)  
玉田 靖 (産学連携副委員長・教授)  
平林 公男 (学生評価委員長・教授)  
小林 俊一 (国際連携委員長・教授)  
三浦 幹彦 (メンター教員・特任教授)  
大月 克幸 (繊維学部事務長)  
中嶋 広隆 (繊維学部研究支援・会計グループ主査)  
大坪 梓 (繊維学部研究支援・会計グループ主任)  
窪田 実文 (学務部学務課大学院室・室長)  
池田 朋子 (事務局/研究支援推進員)  
久保田 亜希子 (事務局/研究支援推進員)

-----  
設楽 稔那子 D3

(総合工学系研究科/生命機能・ファイバー工学専攻/感性生産システム工学部門 3年)

片山 杏子 D2

(総合工学系研究科/システム開発工学専攻/電気電子システム工学部門 2年)

Nabila Febriani D1

(総合医理工学研究科総合理工学専攻/ファイバー工学分野/フロンティアファイバー工学  
ユニット 1年)

唐沢 悠綺 M2

(総合理工学研究科繊維学専攻/先進繊維・感性工学分野/感性工学ユニット 2年)

Dorjjugder, Nasanjargal M2

(総合理工学研究科/繊維学専攻/応用生物科学分野 2年)  
-----

### 【日本学術振興会 (傍聴)】

博士課程教育リーディングプログラム

石田 英之プログラムオフィサー

原口 和敏プログラムオフィサー (他プログラムご担当)

日本学術振興会事務局随行者：

成田 博（人材育成事業部大学連携課課長）

永見 浩輔（人材育成事業部大学連携課課長代理）

種田 浩二（人材育成事業部大学連携課大学院教育改革支援係係長）

金子 寛直（人材育成事業部大学連携課大学院教育改革支援係係員）

### 1.3 配布資料（一覧）

- |                              |     |
|------------------------------|-----|
| 1. 外部評価委員会プログラム              | 1 部 |
| 2. 外部評価委員会座席表                | 1 部 |
| 3. 外部評価委員会出席者一覧              | 1 部 |
| 4. プログラムの実施状況説明資料            | 1 部 |
| 5. 外部評価委員会事業評価シート            | 1 部 |
| 6. リーディングプログラム自己点検評価書        | 1 部 |
| 7. 平成 29 年度年次報告書             | 1 部 |
| 8. 信州大学知の森基金「博士人材育成支援事業」について | 1 部 |

## 2. 事業評価シートによる委員の評価

外部評価委員会の開催に先立ち、一ヶ月前に全委員に本プログラムの自己点検評価報告書および事業評価シート（個人）（資料参照）を郵送した。その際、委員会当日に欠席される委員には、自己点検評価報告書を参考に、事業評価シートへの記入をお願いした。評価委員会当日には、さらに、プログラムコーディネーター・プログラム分担者による実施状況の説明および学生との意見交換に基づき、この事業評価シートによる評価をお願いした。以下はそれをまとめたものである。評価の対象期間は、前回の自己点検評価書発行後である平成 30 年 1 月から平成 30 年 12 月とし、委員には、A(非常に優れている)、B+ (優れている)、B (普通)、B- (やや努力が必要)、C (非常に努力が必要) の 5 段階での評価をお願いした。書面審査による欠席者からの評価については、観点ごとに（欠席者）と記載する。

### (1) プログラム実施体制

本リーディングプログラムの運営組織が、成果目標に照らして適切なものであること。

**観点 1-1** 本リーディングプログラムの運営組織が、成果目標に掲げる人材輩出を実現するためにふさわしい実施体制となっているかどうか。

#### 【委員の個人評価・コメント】

- B+ 継続的に人材輩出する為の方策、再考必要。
- A プログラム運営組織は、この 5 年間、改善を繰り返しながら目標に向かって運営されてきた。今後 5 年間についても、この実績をベースに円滑な継続運営を期待する。
- A 現時点において問題は無いと考えるが、プログラム終了後の体制へ如何に移行するかがポイント。
- B+ 今後のプログラムを如何に変改、継続するか。
- B+ 外部評価の意見も取り入れて体制を改善しながら進めていると思います。また、事業終了後にも持続できる体制作りにも努力されている点を評価します。
- B+ (欠席者) 2020 年からの実施体制について大学内で大卒の決定がなされたことは、募集人数の半減は残念であるものの、実現に向けて大きく踏み出したものとして評価したい。今後は予算化などで万全を期してほしい。今後のプログラムを如何に変改、継続するか。
- B+ (欠席者) なし

**観点 1-2** 社会のニーズに照らし実施体制の見直しを行っているかどうか。

#### 【委員の個人評価・コメント】

- B+ 企業との連携不足（企業へのアピールを整理して行うべき）
- A 外部評価委員会、インターンシップマッチング会、企業訪問から入手した産業界のニーズがプログラムの最適化に生かされている。
- B+ 共同研究のあり方を見直す必要があるのでは？インターンシップのあり方？
- A 外部評価、企業の要望など取組み、見直しは進捗。
- A 産業界の意見を取り入れる活動がしっかり運営されていると思います。
- A (欠席者) インターンシップマッチングの実施や企業訪問などで実績が上がってきていると評価。インターンシップマッチングに更にコンタクトすべき企業が多くあると考えるので、本年の参加企業リストを持って、更に企業参加を呼びかけるなど検討してほしい。

B+ (欠席者) なし

**観点 1-3** 国際的な連携体制は整っているかどうか。

【委員の個人評価・コメント】

A 現状ベストを尽くしている。

A グローバルな連携の進捗を評価する。この成果は、リーディングプログラムだけでなく、信州大学全体への波及効果として確認できる。ただし、今後の継続性（質的）が気になるところである。

A Textile Summit 2018 の開催も有り、体制としては OK か。

A 協定大学・機関も増加、体制は充実。

A 多くの海外の大学と MOU を締結し、また 2018 年度には Textile Summit 2018 も開催してプログラム履修生に運営面も経験させるなど多面的な教育機会を提供した点を高く評価したい。

A (欠席者) 4 大学から 7 大学に国際連携協定が拡大し、特に 9 月に本学でサミットを行ったことは大きな成果。

B+ (欠席者) なし

## (2) 学生の受け入れ状況

履修生選抜の基本方針が明確に定められ、それに沿って、適切な学生の受入が実施されていること。

**観点 2-1** アドミッションポリシーが明確に定められ、公表、周知されているか。

【委員の個人評価・コメント】

A なし

A アドミッションポリシーはプログラムスタート時点から明確に定められ、公表され、周知されていると、この 5 年間、承知している。

A AP の定義、公表・周知 OK

A ポリシーは明確。公表、周知も適切。

A 問題ないと思います。

A (欠席者) 問題なく対応されている。

B+ (欠席者) なし

**観点 2-2** アドミッションポリシーに沿って適切な学生の受け入れ方法が採用されており、実質的に機能しているか。

【委員の個人評価・コメント】

A なし

A アドミッションポリシーを熟知して、国内外の学生が応募していることは確信できる。

B+ 現時点でバランスは取れているが、2021 年度以降を考えると、留学生の受け入れに対する考え方をまとめる必要があるのでは？

B+ 今後の応募者減に対策を明確に。

B+ ポリシーに従った運用はなされているが、国内他大学からの入学がなかったのは残念に思います。

B+ (欠席者) 補助金終了から応募者が減少しているが、歯止めをかける様、一層努力をしてほしい。支援金などの減少面はあるものの、本プロジェクトがグローバルな企業から

見ても魅力あることを本プログラムの卒業生の講演などもしながら更に訴求すべきと考える。

B+ (欠席者) なし

**観点 2-3** アドミッションポリシーに沿った学生の受け入れが実際に行われているかどうかを検証するための取組が行われており、その結果を履修者選抜の改善に役立てているか。

【委員の個人評価・コメント】

A なし

B+ 学生の受け入れ体制（プログラム運営会議、入試委員会、募集説明会）は充分である。

A 検証はなされている。

B+ 補助事業終了後のプログラム続けることが課題。

B+ 補助金終了後の限られた財源の中で、プログラム継続のために努力されている点を評価します。

A (欠席者) プログラム検証は適切に行われている。

B+ (欠席者) なし

**観点 2-4** 優秀な学生を獲得するための広報活動が行われているか。

【委員の個人評価・コメント】

B+ なし

B+ 応募学生・入学学生は、アドミッションポリシー、カリキュラムを十分に認識しているか、幅広い情報の浸透に効果的な広報活動であるかは若干の疑問である。(魂力あるプログラムに、国内外から優秀な学生が殺到してきても良いと、常々考えてきた。他大学のリーディングの応募状況を知りたいところである)

A 適切な広報活動はなされている。

B+ 海外への積極的広報活動は必要。

B+ 補助金終了後の限られた財源の中で、プログラム継続のために努力されている点を評価します。

B+ (欠席者) 補助金終了の中で、留学生の募集が縮小して、留学生比率が減っている点を懸念する。本プログラムが企業から見ても魅力があるのは、留学生と切磋琢磨できることにあるのを十分認識してほしい。

B+ (欠席者) 出口（就職先及び研究の拡がりなど）をしっかりとアピールすることが、優秀な学生を獲得することに効果的だと思います。

### (3) 教育内容および方法

教育内容およびその方法が成果目標に掲げる人材輩出を実現するためにふさわしいものであり、適切に行われていること。

**観点 3-1** リーディングプログラムカリキュラムが適切なものであるかどうか。

【委員の個人評価・コメント】

A 企業の社長などインパクトのある方を特任教授などで来ていただき、特別講義など複数回、具体的に実行したほうがよい。

A カリキュラムは、外部評価委員、学生およびリーディングプログラム委員会の意見および評価を組み入れて、その都度、軌道修正されてきた。プログラム第2段階での継続性を期待する。

- A プログラムの改善も適切になされている。
- A 関係委員や学生の意見も取組み、適切。
- A 本プログラムならではのカリキュラムとなっており、さらに外部評価や学生の意見も取り入れて改善している点を評価します。企業との交流という観点で特徴的な教育を実施されている点を評価します。
- A (欠席者) カリキュラム実施方法の見直しは適切に行われている。
- B+ (欠席者) なし

**観点 3-2** カリキュラムが適切に実施されているかどうか。

【委員の個人評価・コメント】

- A なし
- A リーディングプログラムの目標達成のためのすべてのプログラムは、適切に順調に実施されている。特に、TOEIC スコアの伸び 172.5 は、高く評価したい。
- A 適切に実施されている。
- A インターンシップなど豊富で適切。
- A 問題なく運用されていると思います。
- A (欠席者) 学生が受講を希望したすべての授業が実施された点など評価。
- B+ (欠席者) なし

**観点 3-3** 学生が常に自己評価を行いながらプログラム目標を実現できるシステムとなっているかどうか。

【委員の個人評価・コメント】

- A なし
- A 学生の自己評価システムと支援システムの両輪がうまくマッチングし稼働している。
- A システムとして OK
- A 評価シート、フィードバックなど適切。
- A 教員のしっかりしたサポート体制が構築されている点を評価します。
- A (欠席者) QE や SR のほか、インターンシップのフィードバックも行われており、適切に機能している。
- A (欠席者) なし

**観点 3-4** 教育研究環境が適切なものとなっているかどうか。

【委員の個人評価・コメント】

- A なし
- A 学生の居室、個人の机、音声ガイドの準備を通じて、学生の学習および研究環境は万全と考える。
- A 適切である。
- A 必要な設備など充実。
- A 充実した研究設備が配置されていると思います。
- A (欠席者) 音声用通訳ガイドがあるなど、留学生も含めて環境が整備されている。
- A (欠席者) なし

**観点 3-5** 学生への支援体制が適切に行われているかどうか。

【委員の個人評価・コメント】

- A なし

- A 財政的、教育的支援は十分である。特に学生との面談、企業とのマッチングシステムなど手厚いサポート体制を評価する。
- A なし
- B+ もっと企業との交流機会が必要。
- A メンター制を取り入れて十分なサポート体制にて運営されていると思います。
- A (欠席者) これまでの支援体制は評価する。補助金打ち切りで支援ツールの減少をする際には、できるだけ教育レベルを下げないように、よく御検討頂きたい。
- A (欠席者) なし

**観点 3-6** 学生が満足するプログラムとなっているかどうか。

【委員の個人評価・コメント】

- A なし
- A アンケート結果から学生たちの満足度の高さが読みとれる。ただし、このプログラムを修了して企業へ入った後の彼らのプログラムへの満足度を聞いてみたい。(5年後、10年後の)
- A なし
- B+ アンケート結果などでも概ね満足。今後の経済的支援、将来への不安もみられる。
- B+ 学生アンケートには negative な意見も少数あるようだが、全体としては十分満足しているように見える。留学生の一部の方には不満もあるようですので、個別にヒアリングしてフォローしてあげてください。
- A (欠席者) 履修生及び修了生向けアンケートの結果なども見ても、本プログラムへの評価は高いと考える。
- A (欠席者) 奨励金についても、全国においても最高額を提供している。

(4) 教育の質保証

教育の質の保証が適切であること。

**観点 4-1** 学位授与の基準が適切であるかどうか。

【委員の個人評価・コメント】

- B+ なし
- A プログラムの学位基準が定められており、論文数、TOEIC スコアおよび 5 つのグローバルリーダー能力の判断基準は明確である。
- A 適切であると考えます。
- A 適切。修了者は 2 名のみだが、活躍中。
- A 明確な基準を持って運営されていると思います。
- A (欠席者) 基準は適切なものと考えます。
- B+ (欠席者) なし

**観点 4-2** 質の保証の基準が社会のニーズに照らして適切かどうか。

【委員の個人評価・コメント】

- B+ 企業との連携 ⇒ 新たな考え方を検討、導入希望。
- A 社会ニーズの把握と確認がタイムリーに実施され、プログラムの内容が修正されている。今後とも、変化する社会ニーズの変化への対応への努力を期待する。
- B+ 企業が必要としている研究について、マッチング等を進める必要が有るのではないか。

- A コース変更の指導などもあり適切。
- B+ 企業の人材ニーズも多面的であり、一義的に定義することはできないと思います。さらに時代に応じて刻々と変化すると思われます。貴学の信じる基準で運営されるのでよろしいのではないかと思います。
- A (欠席者) 外部からの評価委員会や学生との意見交換等を通じて、社会のニーズを汲もうとする姿勢は評価できる。
- B+ (欠席者) なし

**観点 4-3** Qualifying Examination の内容が適切であるかまた適切に実施されているかどうか。

【委員の個人評価・コメント】

- B+ なし
- A QE の実施要項は適切と判断する。特にリーダーシップに関する質問内容に注目したい。
- A 適切になされている。
- A なし
- A 適切に運営されていると思います。
- A (欠席者) リーダーシップ等への質問を行うことや、自己点検評価書の 観点 4-2 のように、語学面で進級考査の要素としている点を含めて、目指す人物像から照らして適切な内容となっている。
- B+ (欠席者) なし

**観点 4-4** Systematic Review の内容が適切であるかまた適切に実施されているかどうか。

【委員の個人評価・コメント】

- B+ なし
- A SR の実施項目は明確に定められており、適切に実施されていると判断する。
- A 適切になされている。
- A 概ね適切。
- A 適切に運営されていると思います。
- A (欠席者) SR の実施内容は適切。
- B+ (欠席者) なし

**観点 4-5** 十分な学生の研究成果が得られているかどうか。

【委員の個人評価・コメント】

- B+ なし
- A 更なる発表論文数の増加に期待する。
- B+ 論文増加は認められるが、特許等も必要では。
- A 研究発表、論文数も増加。工業所有権も評価対象。
- B+ 第 1 期生も 5 年次となり、さらなる成果の増加を期待します。
- B+ (欠席者) 論文発表を一層奨励する必要がある。
- B (欠席者) なし

**観点 4-6** 就職先で学生が十分活躍しているかどうか。

【委員の個人評価・コメント】

- B+ なし

- B+ リーディングプログラムを修了した学生が企業で見せる成果が本プログラムの成果であり、プログラムの発展に結びつく。長いスパンでのフィードバック体制の構築を期待する。
- B+ 今後のサポート要す。
- A 就職者の追跡調査は必要。
- B+ 2名の修了者の活躍を長い目で見ていただければと思います。
- A (欠席者) 一期は立派に就職できたと思う。就職先へのアンケートも実施したほうが良い。卒業生は、仕事で多忙だと思うが、アルムナイ的に組織して、本プログラムの学内説明会などで、このコースの良さについて話して貰うとよい。
- B (欠席者) 繊維産業ではIoT等の技術も重要になっており、ものづくりとテクノロジーの両方を理解できる人材の必要性があるため、方向性は間違っていない。引き続き取組を進めて欲しい。

(5) 学生との意見交換に対する所見、その他

- アンケート結果、中間報告・面談などを通してこのプログラム参加者はあらゆる能力が向上顕著。
- 非常に有効・有益なプログラムが確立されたと実感。
- 補助金終了後も条件変更は止むを得ないが、更なる改革を加え、プログラムの継続を切望します。
- 繊維に特化して国際的に通用する人材の育成プログラムをしっかりと構築されていると感服しました。補助金終了後も本プログラムを継続され、有望な人材を輩出する人材センターの機能を維持され続けることを心から期待しております。
- 本プログラムに参加したことのメリットを直接学生からお聞きできて、本プログラムの有効性を理解できました。
- 学生会議など、学生に主体的に考えさせるアクティブラーニングはとても有効だと思いました。
- すでに努力されておられますが、今後は、繊維関係企業からの資金提供を受けて継続していくのが良いと思います（企業がお金を出すべきプログラムだと思いました）。卒業生の活躍をフォローして、プログラムの有効性を企業に宣伝する活動を、今後宜しくお願い致します。
- 最大の懸案事項である本プログラムの継続につき、大学内で大枠が決定したことの意義は大きく、その実施に向けて予算化等をしっかり進めていただきたい。  
ただ補助金削減の中で、人数が削減となり、外国からの留学生が数・比率とも落ちていくことは、グローバルリーダーの養成という本プログラムの本質が損なわれ、ひいては産業界から見ての評価も低下していくことが懸念される。この点につき、更なる検討をお願いしたい。

### 3. 外部評価委員会議事録

信州大学博士課程教育リーディングプログラム  
「ファイバーリネッサンスを先導するグローバルリーダーの養成」  
平成 30 年度外部評価委員会議事録

日時 平成 31 年 1 月 10 日 (木) 午前 9 時

場所 ザ・グラウンドティアラ上田 3 階 アマンダ

出席者 **外部評価委員**

堤 理 (炭素繊維協会)、高木 泰治 (日本染色協会)、土谷 英夫 (日本不織布協会)、松原 富夫 (日本繊維技術士センター)、村瀬 浩貴 (繊維学会)

**信州大学**

下坂学部長、高寺教授、石澤教授、玉田教授、乾教授、平林教授、小林教授、三浦特任教授、大月事務長、中嶋主査、大坪主任、窪田室長、池田研究支援推進員、久保田研究支援推進員

**日本学術振興会**

博士課程教育リーディングプログラム

石田 英之プログラムオフィサー、原口 和敏プログラムオフィサー

日本学術振興会事務局随行者：

成田 博課長 (人材育成事業部大学連携課)

永見 浩輔課長代理 (人材育成事業部大学連携課)

種田 浩二係長 (人材育成事業部大学連携課大学院教育改革支援係)

金子 寛直係員 (人材育成事業部大学連携課大学院教育改革支援係)

欠席者 杉浦 宏美 (経済産業省製造産業局生活製品課)、上田 英志 (日本化学繊維協会)

#### 1. プログラム責任者挨拶

外部評価委員会開会に先立ち、下坂プログラム責任者 (学部長) より挨拶があった。

#### 2. 外部評価委員会について説明

三浦特任教授から、委員会資料、評価の仕方について説明を行った。また今回の委員会の内容を報告書にまとめて後日外部に公表することについて依頼がなされ、了承された。

#### 3. プログラムの実施状況の説明

プログラム採択から現在までの実施状況について、自己点検評価書に沿って高寺プログラムコーディネーターから説明がなされた。

#### 4. 質疑応答

プログラム実施状況について、質疑応答が行われた。外部評価委員からは、この 5 年間、委員からの指摘に対する継続的な改善が行われ、評価するとの意見が多くあった。

一方で、以下の質問・意見・要望があった。

(ア) 補助金終了後の予算について

当初の理念から予算が 4 分の 1 になるのは、疎外になる恐れがあり、十分な教育効果が得られるよう注意をしなければならない。(同時に外部資金の獲得/共同研究の指導・DC への応募、日本唯一の繊維ということをアピールし企業へアピールした資金集め等)

予算規模が小さくなりそれに伴って、人材規模も小さくなると、教育効果としてどうなのか。本当は他の学生にも効果を波及していき、教育効果を上げていくのが望ましい。今後の方向性をどのように考えているか。

補助金終了後のことについて、予算が減るが、問題は資金集め。文科省の補助は終わるので、今までのポリシーは見直し、独自のポリシー、ビジョンを明確にし、資金を集める。今迄からさらにステップアップし、日本唯一の繊維ということをアピールし、資金を集めるべき。

(イ) 学生の間接発表会の発表内容について

産学官連携内容が少ない。逆に言えば、それが多ければ、企業からの要望も多くなる。その転換点が必要。

なぜその研究テーマを選んだか（バックグラウンド）、その説明が足りない。その点を大学として補足、サポートしていく必要がある。

(ウ) アンケートについて

後輩に勧めたいと思わないのが多い。一つの理由に、ミスマッチもあると思うが、民間のテーマをそのままテーマにすることもあるが、そういうところも企業に援助してもらえるところもあるのでは。ここまでできたシステムを継続していただきたい。

(エ) 信州大学がリードして、人材を作っていてほしい。

(オ) プログラム履修生の優れた点について、他の一般学生と比べるのも違うような気がする。どのようにプログラムとして考えていくのか。

## 5. 外部評価委員と学生との意見交換

留学生を含む 4 学年の代表者（各学年 1～2 名）5 名との約 1 時間に亘る意見交換となった。外部評価委員からは、プログラムの良い点、改善点等に関する質問がなされた。

## 6. 評価まとめ

松原委員の議事進行により、評価まとめが以下のとおり行われた。

### プログラム実施体制：A

5 年間の実施体制は評価する。今後の実施体制を要検討。

- B プラス。継続的人材が必要
- A。予算縮減のなかで、今後の実施体制については十分検討してほしい。
- B プラス。共同研究やインターンシップのあり方を見直してほしい。
- A。いかに継続するかにも問題がある。
- A。現在の実施体制は素晴らしい。今後の運営体制。企業からの資金提供を続けるのがよい。成果の発信が重要。
- 欠席者 2 名の評価は A、B プラス。

### 学生の受け入れ状況：B プラス

ヨーロッパの応募が少ない。留学生含め全体的に応募者が少ない。

- A。

- B プラス。全体的な志願者が減っているのが気になる。
- A。2021年以降、留学生の受け入れを再検討する。
- B プラス。応募者が減っているのが課題。
- B プラス。国内他大学から入学者がいなのが残念。
- 欠席者2名の評価は共に B プラス。

### 教育内容および方法：A

当初の計画通りに進んできたし、外部評価委員会の意見も取り入れて改善している。

- A。企業の社長などを特任教授などで採用し、特別講義など具体的に複数回実行したほうがよい。
- A。カリキュラムの重さも改善された。アンケートも事務局・教員に対して高評価。
- A。過去5年改善していただいている
- A。企業からインターンシップ等にもっと参加してもらうことにより、より優秀な学生を育成するべき。
- A。企業との交流ということに対して、特徴的な教育を高評価。外部評価や学生の意見をよく取り入れられている。
- 欠席者2名の評価はA、B プラス。

### 教育の質保証：A

企業との連携の深堀は必要。研究だけではなく、従来とは違う企業ニーズな何かということを検討する必要がある。特許的な開発を入れていただきたい。

- A。企業との連携のあり方をもう少し深堀して連携を深めたほうが良い。
- A。論文数も学外での発表も増えている。特許にも触れてほしかった。
- B プラス。企業とのマッチングを確認してほしい。特許的な観点が必要。
- A。論文、発表は増えているが、特許的なものが欲しい。
- A。論文数は増えているが、最終年度に向けての更なる増加を期待している。
- 欠席者2名の評価はA、B プラス。

### 総合評価：A

- 5年間の実施体制は、高く評価する。ただし、予算縮減のなか、今後の実施体制を十分に検討して戴きたい。
- 留学生を含め全体的に応募者が減っている。ヨーロッパおよび国内他大学からの応募にも、引き続いての配慮を期待する。
- 国内外の学生比率は、プログラム理念に照らし最適化を図って戴きたい。
- 教育内容および方法は、当初の計画通りに円滑に進んできた。外部評価委員会の意見も取

- り入れて、改善してきたことを評価する。
- 企業との連携の深堀は必要である。共同研究の推進だけではなく、従来とは違う企業ニーズは何かということを検討する必要がある。
  - 年々、論文数や学会発表が増えていることを評価する。今後は、特許出願を視野に入れた研究開発にも注力戴きたい。

#### 7. 評価講評

松原委員より、全体の評価としては A である旨、信州大学側に伝えられた。

#### 8. プログラムコーディネーター謝辞

高寺プログラムコーディネーターより謝辞が述べられた。

#### 4. 外部評価を受けて

平成 30 年度外部評価を受けて

プログラムコーディネーター 高寺 政行

本年度も外部評価委員の皆様から、いくつか貴重な助言と意見をいただいた。同時に、過去 4 回の外部評価委員会で指摘された点に対して、プログラムの改善に努力してきた結果、多くの項目に対して高い評価が与えられ、運営に当たる者として大変な喜びである。この高い評価に甘んじることなく、本年度の指摘事項を中心にさらに良いプログラムとなるように努力を続けるつもりである

##### 1. プログラム実施体制

外部評価委員から「5 年間の実施体制は、高く評価する」と高い評価を与えられたのは、プログラム担当者やプログラム事務局にとどまらず、信州大学全体で、プログラムを実施しその改善に努めてきた結果だと考えている。こうした現在の実施体制への高い評価とともに、2020 年度以降の実施に対して、「実績をベースとした円滑な継続運営」に対する期待と「予算削減のなか、今後の体制を十分に検討していただきたい」という意見をいただいた。

文部科学省の補助金が終了した後の 2020 年からのプログラム継続については、学長および理事が出席して行われたプログラム統括会議において、アクションプラン作成委員会の案を下に、2020 年度および 2021 年度のプログラム予算案、実施体制案がすでに作成されているので、この案に基づき実施していく予定である。その際、これまでと同様に常にプログラムの改善と見直しを行いながら、限られた予算の中で円滑な運営ができる体制を探っていききたい。同時に、「企業との連携」をさらに強化していきたい。そのためには、今後も外部評価委員の皆様のお助言が必要であると考えている。また、2022 年度以降のプログラム運営予算については、信州大学の新たな長期予算計画が策定された後に決められることになっている。

##### 2. 学生の受け入れ状況

他の評価項目に対しては、いずれも A 評価をいただいたが、残念ながらこの項目に関しては B+ の評価であった。この結果は、「応募者が減少している」、「国内他大学からの入学者がいない」、「2020 年度からの留学生受け入れ縮小に対する懸念」などの外部評価委員の意見に関連していると思われる。

「応募者の減少」、特に日本人学生の応募が減少している原因は、いくつか考えられるが、最大の原因は、2020 年度以降の学生への財政援助の縮小と思われる。これに対しては、プログラム修了生の社会での活躍状況やプログラムの優れたカリキュラムの紹介に力を入れて、応募者の獲得に努めたい。「国内他大学からの入学者」の獲得については、これまでの広報をさらに強力に推し進めるとともに、「他大学や高専から繊維学部の修士課程に合格した学生とその指導教員を対象に、リーディングプログラムへの応募を勧誘する」という本年度から新たに採用した方式を次年度も行い応募者の獲得を図る予定である。「留学生受け入れ縮小に対する懸念」に対しては、2020 年度から定員 5 名の枠で日本人を中心にプログラム履修生を募集することになっているが、優秀な外国人学生の応募があれば受け入れる予定である。しかし、外国人学生の場合、プログラムからの奨励金支援がなく、私費でプログラムに入学するのは困難なので、応募前に、各自が国費やその他の奨学金を獲得することが必要だろう。

##### 3. 教育内容および方法

教育内容および方法については、いずれの観点においても外部評価委員から高い評価を得た。ただ、「企業の社長などを特任教授などで採用し、特別講義などを複数回実行する」「もっと企業との交流の機会が必要」という意見もいただいた。

「企業の社長を含む役員による講義」は、プログラムでは、すでに毎年 2 名から 3 名の企業役員に講義を行ってもらっている。また、その際、学生との面談もお願いし、企業メンターとしての役割も担ってもらっている。カリキュラムの中でこうした講義回数をこれ以上増やすのは、学生のスケジュール調整および予算の制約から難しいので、繊維学部で全学生を対象に開催される企業役員の講演会等に、プログラム学生の参加を促すような方法で対応したい。また、企業の社長などを特任教授として採用する点については、信州大学の採用方針および規程に従い大学が行うものなので、プログラム単独で対応するのはむずかしい。「もっと企業との交流の機会が必要」という意見に対しても、「企業役員による講義」への対応と同様に、プログラム学生に繊維学部で開催される企業紹介への参加や、企業との共同研究をさらに促すなどの方法で対応したい。

#### 4. 教育の質保証

質保証への取組に対して、他項目と同様に各委員から高い評価をいただいたが、「論文数のさらなる増加」、「特許の増加」、「就職者の追跡調査」という要望も示された。

「論文数の増加」については、博士後期の学生数の増加に伴い順調に増えており、これからも博士論文提出を予定している学生数が増えることから、来年度はさらに増加すると考えている。「特許の増加」についても、プログラムの「知的財産」の授業や経済産業省の知財インターンシップへの参加を通して、特許の重要性を教えているので、特許出願を目指す学生が増えることを期待している。

「就職者の追跡調査」は、このプログラムが真にファイバールネッサンスを先導するグローバルリーダーを養成したかどうかを知るための重要な手段なので、今後長い期間にわたり調査を行っていく予定である。すでにそのために必要な情報収集システムをセキュリティー機能が整った信州大学ポータルサイト ACSU 内の eALPS を利用して構築し、プログラム修了生を含むプログラム全学生の活躍状況の把握に用いている。

5. 外部評価資料  
5.1 事業評価シート（個人）

信州大学博士課程教育リーディングプログラム  
平成 30 年度外部評価委員会  
事業評価シート(個人)

対象期間:平成 30 年 1 月～平成 30 年 12 月

◎総合評価 [ A ・ B<sup>+</sup> ・ B ・ B<sup>-</sup> ・ C ]

A (非常に優れている) ・ B<sup>+</sup> (優れている) ・ B (普通) ・ B<sup>-</sup> (やや努力が必要) ・ C (非常に努力が必要)

○評価項目

1. プログラム実施体制 [ A ・ B<sup>+</sup> ・ B ・ B<sup>-</sup> ・ C ]

本リーディングプログラムの運営組織が、成果目標に照らして適切なものであること。

**観点 1-1** 本リーディングプログラムの運営組織が、成果目標に掲げる人材輩出を実現するためにふさわしい実施体制となっているかどうか。

[ A ・ B<sup>+</sup> ・ B ・ B<sup>-</sup> ・ C ]

【コメント】

**観点 1-2** 社会のニーズに照らし実施体制の見直しを行っているかどうか。

[ A ・ B<sup>+</sup> ・ B ・ B<sup>-</sup> ・ C ]

【コメント】

**観点 1-3** 国際的な連携体制は整っているかどうか。

[ A ・ B<sup>+</sup> ・ B ・ B<sup>-</sup> ・ C ]

【コメント】

2. 学生の受入れ状況 [ A ・ B<sup>+</sup> ・ B ・ B<sup>-</sup> ・ C ]

**履修生選抜の基本方針が明確に定められ、それに沿って、適切な学生の受入が実施されていること。**

**観点 2-1** アドミッションポリシーが明確に定められ、公表、周知されているか。

[ A · B<sup>+</sup> · B · B<sup>-</sup> · C ]

【コメント】

**観点 2-2** アドミッションポリシーに沿って適切な学生の受け入れ方法が採用されており、実質的に機能しているか。

[ A · B<sup>+</sup> · B · B<sup>-</sup> · C ]

【コメント】

**観点 2-3** アドミッションポリシーに沿った学生の受け入れが実際に行われているかどうかを検証するための取組が行われており、その結果を履修者選抜の改善に役立っているか。

[ A · B<sup>+</sup> · B · B<sup>-</sup> · C ]

【コメント】

**観点 2-4** 優秀な学生を獲得するための広報活動が行われているか。

[ A · B<sup>+</sup> · B · B<sup>-</sup> · C ]

【コメント】

### 3. 教育内容および方法

[ A · B<sup>+</sup> · B · B<sup>-</sup> · C ]

教育内容およびその方法が成果目標に掲げる人材輩出を実現するためにふさわしいものであり、適切に行われていること。

**観点 3-1** リーディングプログラムカリキュラムが適切なものであるかどうか。

[ A · B<sup>+</sup> · B · B<sup>-</sup> · C ]

【コメント】

**観点 3-2** カリキュラムが適切に実施されているかどうか。

[ A · B<sup>+</sup> · B · B<sup>-</sup> · C ]

【コメント】

**観点 3-3** 学生が常に自己評価を行いながらプログラム目標を実現できるシステムとなっているかどうか。

[ A · B<sup>+</sup> · B · B<sup>-</sup> · C ]

【コメント】

**観点 3-4** 教育研究環境が適切なものとなっているかどうか。

[ A · B<sup>+</sup> · B · B<sup>-</sup> · C ]

【コメント】

**観点 3-5** 学生への支援体制が適切に行われているかどうか。

[ A · B<sup>+</sup> · B · B<sup>-</sup> · C ]

【コメント】

**観点 3-6** 学生が満足するプログラムとなっているかどうか。

[ A · B<sup>+</sup> · B · B<sup>-</sup> · C ]

【コメント】

#### 4. 教育の質保証

[ A · B<sup>+</sup> · B · B<sup>-</sup> · C ]

教育の質の保証が適切であること。

**観点 4-1** 学位授与の基準が適切であるかどうか。

[ A · B<sup>+</sup> · B · B<sup>-</sup> · C ]

【コメント】

**観点 4-2** 質の保証の基準が社会のニーズに照らして適切かどうか。

[ A · B<sup>+</sup> · B · B<sup>-</sup> · C ]

【コメント】

**観点 4-3** Qualifying Examination の内容が適切であるかまた適切に実施されているかどうか。

[ A · B<sup>+</sup> · B · B<sup>-</sup> · C ]

【コメント】

**観点 4-4** Systematic Review の内容が適切であるかまた適切に実施されているかどうか。

[ A · B<sup>+</sup> · B · B<sup>-</sup> · C ]

【コメント】

**観点 4-5** 十分な学生の研究成果が得られているかどうか。

[ A · B<sup>+</sup> · B · B<sup>-</sup> · C ]

【コメント】

**観点 4-6** 就職先で学生が十分活躍しているかどうか。

【コメント】

○学生との意見交換に対する所見、その他

【コメント】

記入者

氏 名

---

5.2 事業評価シート(総評)

信州大学博士課程教育リーディングプログラム

平成 30 年度外部評価委員会

事業評価シート(総評)

対象期間:平成 30 年 1 月～平成 30 年 12 月

◎ 総合評価                    A ・ B<sup>+</sup> ・ B ・ B<sup>-</sup> ・ C

○ 評価項目

1. プログラム実施体制                    A ・ B<sup>+</sup> ・ B ・ B<sup>-</sup> ・ C

2. 学生の受け入れ状況                    A ・ B<sup>+</sup> ・ B ・ B<sup>-</sup> ・ C

3. 教育内容および方法                    A ・ B<sup>+</sup> ・ B ・ B<sup>-</sup> ・ C

4. 教育の質保証                    A ・ B<sup>+</sup> ・ B ・ B<sup>-</sup> ・ C

[ 事業に関する総合的所見 ]

平成 31 年 1 月 10 日

評価者

署名

